

市制50年のあゆみ

50th

公共施設の建設や市民生活に関わる事業、取り組みを中心に、この50年間の市内の主な出来事をご紹介します。

1971～1979年 好景気に沸く時代に誕生

伊勢原市は昭和46(1971)年、県下15番目の市として産声をあげました。昭和20年代後期から40年代後期にかけては、日本経済が飛躍的な成長を遂げた時期。市内でも中央通りの道路拡幅開始や伊勢原駅南口の整備など、市の基盤を作り上げていきました。

市制施行(人口4万5102人)



1971

「人口3万人を超える」などの要件を満たし市制を施行。施行に伴い浜田好一町長が市長となり、当日は市役所開所式や花火打ち上げなどを行った

● 高森地区の一部で下水道使用開始

1973

伊勢原駅南口にバスターミナルを設置



中央にバス乗り場を設置し混雑を緩和。横断歩道と歩道の段差を縮めて歩きやすくした

● 市ノ坪公園を開園
● 自然環境保全地域に大山・日向の4区域を指定

1977

昭和52年当時の中央通り



● 推奨観光みやげ品に大山こまなど8品目が選定
● 印鑑登録がカード化

● 大田公民館を建設
● 産業能率大学が開校
● 前高森土地区画整理事業が完成

市役所新庁舎が完成



1階に窓口業務を集中化し、市民サービスを追求した庁舎。併せてレストラン棟、公害調査所も完成

1979

休日診療所を開院



市民の長年の願いであった休日診療所が、市医師会の協力の下、八幡台の旧保健ステーションで業務を開始

1971

昭和46年3月1日

1972

昭和47年

1973

昭和48年

1974

昭和49年

1975

昭和50年

1976

昭和51年

1977

昭和52年

1978

昭和53年

1979

昭和54年

内陸伊勢原工業団地が完成(13社が操業開始)



4カ年事業として総事業費53億7000万円をかけた工業団地が鈴川に完成。運動場や緑地地帯を設け、働きやすい環境づくりに配慮

1972

● 市の木(しい)・花(ききょう)・鳥(やまどり)を制定
● 鈴川公園を開園
● 県立伊勢原射撃場が完成
● 人口5万人に
● 中村周二氏が第2代市長に就任

東海大学医学部附属病院が開院



当時の病院診療部門の水準を超える診療施設を完備した総合病院

1975

● 人口6万人に
● 組合立伊勢原中学校が市立伊勢原中学校に

老人福祉センター阿夫利荘を開設



● 清掃工場に180トン焼却炉(90トン炉2基)が完成
● 大山こまがメキシコへ(「世界工芸会議」に日本代表として参加)

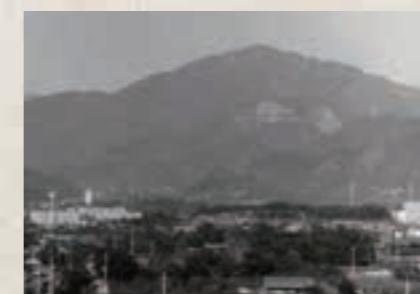
● 大山公民館を建設

緑台小学校、竹園小学校を開校



成瀬小学校、桜台小学校の児童増加に伴い新設(写真は緑台小学校)

1978



市役所屋上からの大山

1980～1989年 ゆとりを求める時代 昭和から平成へ

パソコンや家庭用ゲーム機の発売、ゆとり教育の実施など、経済中心から文化的な面も重視される時代になりました。伊勢原市では市民文化会館、図書館、子ども科学館を開館。昭和64年1月7日に昭和天皇が崩御され、昭和から平成に改元されました。

1985

消防署南分署で救急業務を開始



小田急線以南の市域をカバーする救急隊を配属

- 消防庁舎(本署)を増改築、総合指令装置を導入
- 清掃工場に90トン焼却炉が完成
- 下落合、板戸の土地区画整理事業が完成



新装した消防庁舎に総合指令装置が導入され、市内の小学生が見学

1987

終末処理場(現愛称:アクア クリーンセンター)が完成



当初の処理能力は1万5000人分。完成後は10万人分超の対応が可能に

- 人口8万人に成瀬第一特定土地区画整理事業が完成
- 第1回平和のつどいを開催

- 御所の入森のコテージを開設

1988

市体育館を開館



総合運動公園の中心施設として開館。初日は全日本男子バレーボールの試合が行われた

1982

障害福祉センター(現:障害福祉センターすこやか園)開設



中沢中学校を開校



伊勢原中学校の生徒増加に伴い、市内4番目の中学校として誕生

- 高部屋公民館を建設
- 消防署南分署およびコミュニティ防災センターを開設

市民文化会館を開館



1980

市の文化拠点施設として市庁舎北側に建設。1204席の大ホール、392席の小ホールのほかリハーサル室、喫茶コーナーを完備

- 成瀬公民館を建設
- 市民の森ふじやま公園、緑ヶ丘公園、東富岡公園を開園
- 市営大山駐車場が完成
- 人口7万人に

1980

昭和55年

1981

昭和56年

1982

昭和57年

1983

昭和58年

1984

昭和59年

1985

昭和60年

1986

昭和61年

1987

昭和62年

1988

昭和63年

1989

平成元年

- 防災行政無線を開始
- 比々多公民館を建設

米・カリフォルニア州ラミラダ市と姉妹都市提携



市内に本社を構える株式会社アマダが、同市に子会社を設立したことがきっかけで提携

1981

- 総合運動公園の建設始まる

伊勢原南公民館を建設



1984

中央通り全線拡幅完了



昭和47年から道路拡幅を行っていた工事が完了

長野県茅野市と姉妹都市提携



- 健康・文化都市を宣言
- 武道館を新築移転

第1回大山登山マラソン大会



昭和56年以来5年ぶりに復活。以降、毎年3月に開催

1986

市制施行15周年を記念し、諏訪大社の御柱祭でも知られる茅野市と姉妹都市に

図書館と子ども科学館を開館



プラネタリウムやクーデス天体望遠鏡を備えた科学館、蔵書11万冊(当時)の図書館を擁する複合施設

「すこやかリズム体操」完成



1989

市民の健康維持・促進のため創作したオリジナルの体操

1990～2000年 人口9万人に到達、平和都市を宣言

東海道新幹線「のぞみ」の運行開始や山形新幹線開業など、東京周辺のインフラが向上した時代。文化やソフト分野を重視する傾向は続いており、伊勢原市でも中央公民館や伊勢原シティプラザをオープン。土地区画整理事業の推進により人口も増え、より住みやすいまちへという意識が高まりました。

- 人口9万人に
- 成瀬コミュニティセンター、伊勢原北コミュニティセンターを開設
- 環境美化センターが完成
- 東高森特定土地区画整理事業、下糟屋土地区画整理事業が完成



広い展示ホールや本格的な茶室、陶芸窯のある美術工芸室などを備えた総合的な生涯学習施設



開場式後はプロ野球オープン戦(大洋対ロッテ)で祝った

1991

- 平和都市を宣言
- 串橋特定土地区画整理事業が完成



昭和50年に寄贈を受けた銅像を、旧伊勢原公民館の敷地から移設

1993

1997



市民文化会館で行われた設立総会

休日夜間診療所(現:休日夜間急患診療所)や休日歯科診療所、休日薬局、社会福祉協議会、商工会などが入る保健・医療・福祉・産業振興の拠点

- 稲荷久保土地区画整理事業、坪ノ内特定土地区画整理事業が完成
- 市ホームページを開設
- 子育て支援センターを開設

1999



成瀬小学校の児童増加に伴い、市内で10番目の小学校が誕生

1990 平成2年 | 1991 平成3年 | 1992 平成4年 | 1993 平成5年 | 1995 平成7年 | 1996 平成8年 | 1997 平成9年 | 1998 平成10年 | 1999 平成11年 | 2000 平成12年

- 比々多第一特定土地区画整理事業が完成
- 東大竹特定土地区画整理事業が完成
- 千津ふれあい公園を開園
- 「みかんの木オーナー制度」を開始



市西部地域の消防・防災活動を充実するため、三ノ宮に市内3番目の消防署が完成

1992

- 堀江侃氏が第4代市長に就任

- 伊勢原南コミュニティセンターを開設
- 資源の分別収集を市内全域に拡大
- 日向薬師宝城坊本堂が国指定重要文化財に



1995

- 公募による有審査の美術展、第1回いせはら市展を開催



市内ではソフトボール少年男子、ライフル射撃の競技を実施。多くの市民ボランティアが全国の選手を迎えた

1998



旧大山駅から諏訪裏橋までの約800mの区間が開通。令和3年度には全線開通予定

2000

- 原之宿、池端、粕上原の土地区画整理事業が完成

2001～2021年 次世代に向け、大きな飛躍を遂げた年代

21世紀となり、伊勢原市は市制施行30周年を迎えました。このころは平成23年の東日本大震災や集中豪雨など、歴史的な災害が相次いだ時代でもあります。伊勢原市では「大山詣り」のストーリーが日本遺産に認定され、新東名高速道路 伊勢原大山インターチェンジが開設されるなど、次世代へのあゆみを確実にしました。

2001

9月10日、市の総人口が10万人を突破。この日出生届が出された10人の新生児には、記念品の時計が贈られた

人口10万人に



新才能「道灌」を披露



市制施行30周年を記念し制作

- 稲荷久保第二土地区画整理事業が完成
- 愛甲石田駅南口駅前広場が完成
- 長塚幾子氏が第5代市長に就任

2009

伊勢原駅自由通路が完成



完成に伴い、通路内に住民票の写しなどを発行する市役所駅窓口センターも開設

いせはら市民活動サポートセンターを開設



市民活動の拠点となる施設

- 第1回湘南いせはら芸術花火大会(現いせはら芸術花火大会)が開催

2013

市公式イメージキャラクター「クルリン」が誕生



大山こまの帽子をかぶったキャラクター、クルリンが応募総数1061点の中から選ばれた。市をPRするため市内内外で活動中

- 神奈川県の新たな観光の核づくり認定事業に「大山魅力再発見平成大山講プロジェクト」が認定

市制施行50周年キャッチフレーズとロゴマークを作成



市民や地元大学、関係機関と協力し、ワークショップや市民投票などを経て決定



ロゴマークのデザインは東海大学教養学部芸術学科の学生が作成

新東名高速道路 伊勢原大山インターチェンジが開設



伊勢原ジャンクションから伊勢原大山インターチェンジまでの区間が開通。令和5年度には全線開通予定

- 笛演奏家の福原洋子(本名尾崎洋子)さんが国指定重要無形文化財保持者に
- 産業能率大学学園祭で、世界一長い絵馬の列の世界記録達成(463枚)



- 東部土地区画整理事業が完成
- 市議会本会議のインターネット中継を開始

大山の紅葉ライトアップが初開催



今や秋の風物詩となった紅葉ライトアップが、この年にスタート

2005

- 歌川産業スクエアが誕生
- いせはらくらし安心メールを開始

2010

伊勢原駅観光案内所が開設



要望が多かった観光案内所を開設し、土産品なども販売。平成27年からは愛称が「駅ナカクルリンハウス」に

- 丸山城址公園を開園

2012

ロンドンパラリンピックで秋山里奈さんが金メダル



水泳女子100m背泳ぎ(視覚障がい)の部)で優勝。市役所で行われた報告会では多くの市民が祝福した

- 高山松太郎現市長が就任

伊勢原協同病院が新築移転



市民の健康を支えてきた伊勢原協同病院。緩和ケア病棟などが整備され、病児・病後児保育も開設

2014

- 成瀬第二特定土地区画整理事業が完成

- 小田急線伊勢原駅に特急ロマンスカーが常時停車化
- 高部屋神社が国登録有形文化財、日向薬師宝城坊の獅子頭が国指定重要文化財に
- 日向薬師宝城坊本堂の平成の大修理が完了

「大山詣り」が日本遺産に認定



地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを、文化庁が認定する日本遺産。全国で24番目の認定となった ※詳細は次ページ参照

2016

- 市制施行50周年